

あしたのため

四日市市立朝明中学校
3年生学年通信
平成30年5月21日(月)
その16 文責(浅野)

人生

～あなたの人生は毎日が本番！自分の行動に責任を～



土曜授業の総合的な学習で、しおりの読み込みをしました。主に3日間の行程の説明でしたが、みんな大丈夫ですか？大切なことは、一人ひとりが自分の行動に責任を持つことです。何よりも全員が無事で帰ってくる事なのです。多くのことを学び、何よりも学びがあり、思い出に残る楽しい修学旅行にしたいものですね。

人生において、練習ということはありません。すべてが本番であり、二度とない経験ばかりです。毎日見る花でも、時が変われば同じように見ることは二度とありません。毎日見る風景も、時が変わ

れば同じように見えることは二度とありません。人との出会いも、そのときに話すこと、感じる事、聞くこと、感動することなど、まったく同じことは二度とありません。その瞬間の出来事は、その瞬間かぎりのことなのです。世界一の限定品なのですね…

そう考えると、人生は常に本番ばかりで成り立っているということ。「こんな機会は二度とない」「これが、最初で最後だ」「同じ経験は、後にも先にも、これっきり」そう実感できると、一生懸命にならざるをえません。自然と元気が出て、この瞬間の楽しみは、今のうちに精いっぱい味わっておこうと思うものです。今あなたがこの通信を読んで感じていることでさえ、今この瞬間が最初で最後。家に帰ってこの通信を読めば、もうすでに受ける印象は違って来るものです。同じ文章でも、時を変えれば受ける印象が変わってくるというのは、本当に不思議な話ですね。人間は本来怠け者で、つい予定を後回しにしてしまいがちです。楽な方向へ逃げたいもの。「まあ、いいか。また今度しよう！」そう思ったことはたいてい、いつになっても実行しないものです。それはそのときのやる気や元気も「そのとき限り」だからです。後からになってもう一度あのときと同じ状態でもと思って、もう不可能なことなのです。その瞬間にやるべきことは、その瞬間にやるべきです。その瞬間に素直に楽しいと思ったら、その瞬間に存分にその気持ちを味わいきることです。その瞬間にづらい思いをしたら、後からばねにできるようにその瞬間に存分に味わいきることです。今この瞬間を常に「二度と来ることのない出来事」ととらえている人は、人生を常に一生懸命で元気にすごすことのできる人なのだと思います。

今回の修学旅行はどうでしょうか？ただ「楽しみ」だけでは楽しめません。自分から行動しなければただ漠然としたものになってしまうだけです。「**自分の行動に責任を持つ**」とはそういうことです。これはみんなの日々の勉強や後々の入試に必ずつながることです。そういった意味で今回の修学旅行をぜひとも成功させたいと思っています。

受験生のみんなに贈る有名人の名言集 11 2019年度公立高校後期選抜入試まで 294日/卒業まで 159日

“Happiness depends upon ourselves.”

訳「幸せかどうかは、自分次第である。」

これは、アメリカ合衆国の思想家・哲学者・作家・詩人・エッセイストであるエマーソンの言葉。その通りですな。

✓CHECK depend on (upon) 「次第である」

修学旅行に向けてⅦ～修学旅行見学地を探る～

東京ディズニーランドが「夢の国」と呼ばれる理由

「人は誰でも、世界中で最もすばらしい場所を夢見て、創造し、設計し、建設することもできるだろう。しかし、その夢を実現するのは人である。」



これは、ウォルト・ディズニーの言葉です。東京ディズニーリゾートは、青空を背景にした巨大なステージ。ここでは観るものすべてがショーであり、そこにいらっしゃったお客様はショーに参加していただく「ゲスト」、ゲストをお迎えするスタッフは「キャスト（役者）」と呼ばれます。

みんな修学旅行でのディズニーランドは大変楽しみにしているようですね。ディズニーランドは、「人々に幸福を与える場所」として有名ですが、どうしてなのでしょう？「おとも子供も、ともに生命の驚異や冒険を体験し、楽しい思い出をつくってもらえるような場所であってほしい…」というウォルト・ディズニーの願いが込められたこのテーマパークを実現させているのは、まさに「キャスト」と呼ばれている人たちなのです。せっかく修学旅行で訪れるのですから、アトラクションも大切ですが、ぜひこの「キャスト」という人たちにも注目してほしいものです。今日はその中でも特に注目されている「カストーディアル」というキャストについてのお話。



カストーディアルとは「大切なものを管理、保管すること」という意味…

ディズニーランドの清掃キャストに、「何をしているのか」たずねると・・・

「夢のかけらを集めているんですよ」

「ミッキーの宝物を探しています」

「これは今はこんな感じですが、あとでミッキーが魔法をかけて夢の欠片となりみなさんのところへ届くんですよ」

「こいつ(ほうき)がお腹すいたって言うんで、ポップコーン食べさせてるんですよ」

「カストーディアル」と称されるディズニーランドの清掃員。彼らが行っているのは、いわゆる“清掃”ではありません。米国のディズニーランドの初代カストーディアル・マネジャーを務め、ディズニーのキャストに「そうじの神様」として知られているチャック・ポヤージン氏の印象的な言葉に「そうじは、汚れているからするのではなく、汚さないためにするんだ。汚せないきれいにすれば、捨てることに躊躇するんだよ。そうなれば、ゴミを捨てる人はいなくなる。劇場の舞台に、ゴミを捨てる観客はいないだろう？ それと同じで、ここも舞台なんだ。僕らは、舞台を作るためのエンターティナーなんだよ」(『ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと』142 ページより引用)「僕はね、子どもが床にポップコーンを落としても、拾って食べられるくらいきれいにしてほしいんだ」(同書 146 ページより引用)

ディズニーランドでは、お客様に夢と感動をプレゼントするために、ゴミ1つ落ちていない、キレイな場所を目指し、そうじを徹底しているのです。例えば、①朝から晩まで、そうじ係が300人ずつ15分交代で毎日そうじしていたり、②「ナイトカストーディアル」と呼ばれている「夜のそうじ係」がいて、毎日、夜中の12時から朝の7時まで、あの広い園内をブラシを使って「水洗い」したり、トイレをそうじしたりしているのです。例え、ゴミが投げ捨てられたとしても、15分以内には必ずカストーディアルが掃除するシステムになっているのです。だから、本当にディズニーランドはいつでもゴミ1つ無いほどキレイなのです。

東京ディズニーランドの役員である北村さんは、従業員とコミュニケーションをとるために、月に2・3回は、自らナイトカストーディアルとして深夜の掃除をするそうである。

ある夜、北村さんが「アドベンチャーランド」を掃除し、食堂の厨房を洗い終えた午前3時頃、トゥモロランドへ移動したときのことである。そこには、大きなトイレがあり、若いナイトカストーディアルが掃除をしているのが見えた。しかし、彼が一人で一生懸命ゴシゴシと掃除しているのに、そのトイレから話し声が聞こえてくる。北村さんが不思議に思って、近づいてよく聞いてみると、何と彼は便器に話しかけながら掃除をやっていたのである。これには、北村さんはビックリした。そして、なぜ便器に話しかけているのかを彼に尋ねた。彼はぼつりぼつりと話しはじめた。「僕は、自分で希望して、この職業を選んだけれど、この仕事が嫌で嫌でしかたがありませんでした。夜はやっぱり寂しいし、こんなに広いところを少ない人数でピカピカにするのはつらい。どうしてこんな事をやっているのか、情けなくなってきたんです。何度もやめようと思った。でも、本場アメリカのディズニーランドへ行って、考え方が変わったんです。なぜなら、むこうのナイトカストーディアルは『こんな素晴らしい仕事をどうして嫌がるんだ。僕は全然さびしくないよ。なぜだか教えてやろうか』と言って、トイレに連れて行ってくれたんです。それで『これはみんな僕の友達だよ、名前もあるんだよ』と言って、ずらっと並んだ便器を『トム、ジャック、スティーブ・・・』と順番に呼んで紹介してくれました。『僕は、毎晩彼らと話しながら仕事してるんだ』というなり、彼は『トム、どうだい元気かい。そうか、今日は思いっきり汚されたからキレイにしてくれって？ よし、思いっきりキレイにしてあげるよ』なんて言いながら、掃除していくんです。『こうしてキレイにしてあげると、便器も喜びし、お客さんも喜びんだ。そして、ほくも楽しいよ』これはスゴイ。僕は思わず泣けてきました。よし、僕もこれでいこう。そう思って、日本に帰ってきてから頑張っているんです。」かれは、こんな話しをしてくれた。北村さんは、心がホッと暖まるような感動を覚えた。